

1. 令和5年度『学力向上推進プラン・プロジェクトⅡ』第4年次【充実期】

学力向上推進のための取組構想

知念中学校

県総括目標：幼児児童生徒一人一人に「生きる力」の基盤となる「新しい時代をつくるために必要とされる資質・能力」を育む。

市総括目標：知・徳・体の調和の取れた幼児・児童・生徒の育成～「確かな学力」を持ち、主体的に他者と協働して夢や希望を持って生きる子～

総括目標：幼児・児童・生徒一人一人に「生きる力」の基板となる「新しい時代をつくるために必要とされる資質・能力」をはぐくむ

令和5年度推進目標

- 全国学力学習状況調査において、全国水準まで向上させる。
- 沖縄県学力到達度調査において、全教科が県平均正答率を上回る。

【成果指標】

- ①全国平均正答率において国語、数学とも3 p以内
- ②正答率30%未満の生徒の割合及び無解答率の減少
- ③児童生徒質問紙の学習意欲等に関する項目の数値の向上
- ④学校評価アンケートの「授業における基本事項」等に関する事項の数値向上

【R4年度学校実態】

全国学力状況調査（正答率%）

正答率30%未満の割合（%）

無解答率の割合（%）

	国語	数学	理科
本校	61.0	39.0	46.0
沖縄県	64.0	42.0	44.0
全国	69.0	51.4	49.3

	国語	数学	理科
本校	7.8	42.1	23.7
沖縄県	11.1	39.8	25.9
全国	6.7	26.0	19.9

	国語	数学	理科
本校	5.1	15.2	2.8
沖縄県	5.8	13.2	4.3
全国	4.3	12.8	3.4

沖縄県学力到達度調査（正答率%）

※全国学力調査

	2年国語	2年数学	2年英語	1年国語	2年数学	3年英語
本校	42.7	34.5	38.5	59.3	45.2	40.7
南城市	50.7	44.7	48.9	57.4	47.3	40.9
島尻地区	49.5	44.1	49.4	55.4	45	41.3
沖縄県	49.9	43.4	50.3	54.9	44.4	42.0

- ・理科は県平均正答率を上回った。
- ・国語は正答 30.0%未満の割合が 7.8%。無解答率の割合が 5.1%。
- ・数学は正答率 30.0%未満の割合が 42.1%。無解答率の割合が 15.2%。

取組の重点

柱1 キャリア教育の視点を踏まえた「確かな学力」の向上の推進

柱2 「授業改善」に重点をおいた「確かな学力」の向上の推進

- 地域教育資源や本物に触れる活動をとおして学ぶ意義や働く意義を実感させる。
- ・1次産業体験、職場体験、平和集会、地域行事等、地域の自然、文化、産業や人材を活用した学習を行う。
- ・愛汗デーの活動を通して、校訓『愛汗大志』の心を育成する。

- 「わかる授業」「参加する授業」を目指した授業改善の推進
 - ・目指す授業像（授業スタイル）の共有による授業を実践する。
 - ・公開授業及び主事招聘授業、授業研究会を積極的に実施する。
 - ・授業改善に係る校内研修を年間計画に位置づけ、共通理解を図る。
 - ・公開授業への積極的な授業参観・評価（「付箋紙大作戦」）を実践する。
- 全校体制による「知学タイム」「学力向上強化月間」の実践
 - ・朝の知学タイム（週4回、20分間、国・数・英）を計画的に実施する。
 - ・学力向上強化月間における、「授業と連動した課題の提示」「補習」を計画的に実施する。

目指す授業像：他者と関わりながら、課題の解決に向かい「問い」が生まれる授業

学力向上推進の「3つの視点」(PPⅡ)

自己肯定感の高まり	学び・育ちの実感	組織的な関わり
<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の良い点や可能性、進歩の状況などを適切に把握してフィードバックする。 ○生徒が自分の特徴に気づき良い所を伸ばす。 ○日常の教育活動の中で適時個々の良さを伝えながら生徒の自己肯定感を高める。 ○主体的に学習に取り組む態度。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師が教材研究と生徒理解を深め主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組む。 ○一人一人の学習状況を丁寧に見取る事が大切。 ○学び育ちの実感を積み重ねることで生徒が自らの目標や課題を持って学習に粘り強く取り組む姿勢。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自らの学び・育ちを実感し自己肯定感を高めていくためには学校全体で組織的かつ計画的に関わることが効果的。そのため校内研究や教科会、学年会等において何をどのように見取りどのように評価するのかその結果を支援にどうつなげていくのかを職員間で深め共有する必要。

授業改善6つの方策		
方策1 目指す授業像の共有	方策2 教材研究の充実	方策3 学力向上マネジメントの推進
<ul style="list-style-type: none"> ○「主体的・対話的で深い学び」の視点から目指す授業像、生徒の姿を共有し、授業改善の取組を展開する。 ・【授業スタイル】めあての提示（導入）→言語活動の充実（展開）→めあてと連動したふり返り（まとめ） ・「めあて」に正対した「まとめ・ふり返り」 ・考えをまとめたり表現（アウトプット）したりする時間の設定・確保 ・一単位時間で完結する授業 ・ICT機器を効果的に活用した授業 	<ul style="list-style-type: none"> ○各種資料の分析・活用を通し、授業改善の充実を図る。 ・全国学力調査、県学力到達度調査、県学力定着状況調査、市標準学力調査の結果分析・活用した授業づくり ・「問い」が生まれる授業サポートガイドを活用した授業づくり ○組織的な取り組みにより、授業改善の充実を図る。 ・教科会を週時程に位置づけ、教材研究の充実を図る。 ・授業改善に係る校内研の充実を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ○学力向上の具体的な到達目標を共有し、学力向上マネジメントによる目標管理型評価システムを取り入れる。 ・学校評価、学年・学級経営、教科経営の到達目標の評価を行い、課題に対する対策を講じる。 ○全校体制での取り組みを推進する。 ・学力向上推進委員会の充実を図る ・管理職による授業観察とフィードバックを行う。

方策4 学習を支える力の育成		
学習環境の充実	規範意識・マナーの向上	家庭学習の習慣化
<ul style="list-style-type: none"> ○「学習のきまり」の徹底 ・1分前着席、黙想の実施 ・学習の準備、聞く態度の育成 ・整理整頓の日の設定（毎週金曜日） ・毎時間後の資料のファイリング 	<ul style="list-style-type: none"> ○「私たちのきまり」の徹底 ・あいさつ、きまりを守る、命を大切にしている態度を身につけさせるための支援 ・道徳教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習の充実 ・「愛汗大志」の効果的な活用 ・「家庭学習山登り表」「家庭学習カレンダー」等の活用。家庭学習賞の設定。ノートリレーの実施。
読書活動の充実	体験活動の充実	部活動の充実と適正化
<ul style="list-style-type: none"> ・朝の読書活動の充実 ・読書月間、旬間の充実 ・図書館の積極的な活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域教育資源の積極的な活用 ・1次産業体験、職場体験、地域行事への参加・発表等の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動休養日の設定（毎週水曜日） ・定期テスト1週間前の部活動停止 ・朝のあいさつ運動（各部輪番制）
生活リズムの確立	対話の充実	
<ul style="list-style-type: none"> ・朝の「てくてく登校」の奨励 ・「早寝・早起き・朝ごはん」の奨励 ・食育に関する授業実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動、生徒会活動の充実 ・教育相談の充実 ・授業での言語活動の充実 	

方策5 集団づくり・自主性を高める取組の充実	方策6 教育行政との連携
<ul style="list-style-type: none"> ○支持的風土をつくる学級経営 ・お互いのよさを認め合い、考えを交流させる授業展開 ○生徒指導の三つの機能を生かした授業の日常化 ・共感的な人間関係、自己決定の機会、自己存在感を得る場を生かした授業実践 ○学級活動や生徒会活動の充実 ・話し合い活動、所属感や自己有用感を育む行事の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校支援訪問による授業改善の推進 ・学力向上推進室、島尻教育事務所、市教育委員会の訪問による授業観察や学力向上の取組への指導助言等を授業改善に反映させる。 ・指導主事招聘による研究授業や校内研修を実施する。 ・学力向上推進本部会議からの提言を授業改善に反映させる。

言 価

①全国学力状況調査において、国語・数学とも全国平均正答率の-3 p 以内	
②沖縄県学力到達度調査において、全教科で県平均正答率を上回る	
③正答率30%未満の児童生徒の割合及び無解答率の減少	
④児童生徒質問紙の学習意欲等に関する項目の数値の向上	
⑤学校質問紙の「授業における基本事項」等に関する事項の数値向上	

評価→【達成状況 90%以上→A 70%以上89%未満→B 70%未満→C】

【残った課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・正答率30%未満の生徒への基礎・基本の定着。 	【R5年度の対応策】 <ul style="list-style-type: none"> ・全校体制による継続した学力向上推進取組の実施。
---	---